

江北の四季

令和2年

11月29日

第35号



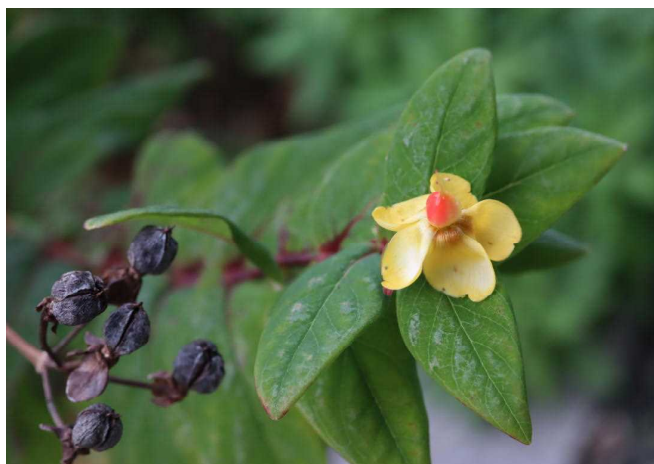
シモツケ(下野)の返り花



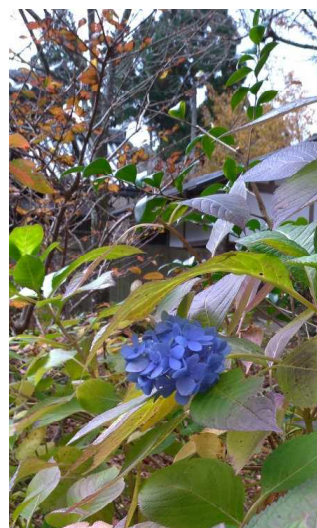
ユキヤナギ(雪柳)の返り花

○小雪(しゅうせつ)

十一月二十二日からは二十四節気の小雪。木々の葉が落ち北国や山間部では初雪が舞い始める頃です。いよいよ冬の入り口に立ちました。日を追うごとに冷え込みは増しますが、本格的な寒さや雪はまだ少し先なので小雪だとか。ときには移動性高気圧に覆われ暖かく



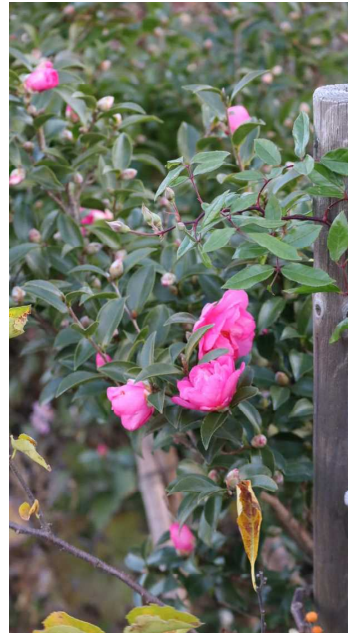
ヒペリカムの返り花



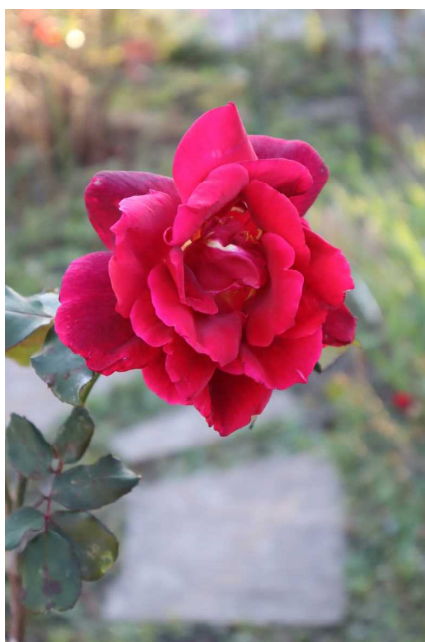
アジサイの返り花

なることもあり、こはるびより小春日和となります。小春日和が続くと、春と勘違いしたのか、返り花、忘れ花あるいは狂い花などと呼ばれる花が咲くことがあります。こちらは、夏から放っておいた網戸洗いや窓拭きに精を出すときです。そして、庭の落葉樹の剪定。春伸びる枝に花のつくサルズベリ(百日紅)やムラサキシキブ(紫式部)は思い切って枝を払いましょう。アジサイ(紫陽花)も春伸びる枝に花がつくのですが、これだけは、そのままにしておく枝、上から三分の一、三分の二のところまで切る枝、下部で切る枝と三段階に剪定します。来年になると、長く残しておいた枝の節には短く枝が出て花が付きませんが、短く切った枝の節からは長い枝が出て花が付きまます。ご存じのように、アジサイは古い枝で切らないと水が上がりませんから、来年の花材用に様々な長さで剪定することになります。根元で切った枝は来年新しい枝は出ますが花は咲きません。これは再来年用ということになります。当然ですが、他の多くの木々、枝振りを花に生かしたいものは、できるだけ控えた剪定となります。徒長枝やふところ枝を剪定する程度です。ムクゲ(木槿)はいくら切っても大丈夫なので、Yに枝分かれをした下で切り、生花用の花留めである又木をとるようにします。というわけで、薔薇を除いた木々の剪定は、ガーデナー補佐の私の出番となります。

○白花のサザンカもたくさん咲いてきました。
一方、バラは少しですが、まだ咲き続けます。花は冷気を浴び、色が濃くなる一方です。また、寒いためにその一輪が長く咲いています。春咲いた花が実になっている横で咲いている姿は風情のあるものです。



○第五十八候、小雪、初候、虹蔵不見(にじかくれてみえず)
昼が短くなり、その日中も曇り空が多くなり、虹を見ることはほとんどありません。冬は太陽からの光も弱く、見えても、夏のようなくっきりとした明るい虹ではなく、ぼんやりとした淡い虹ですぐに消えてしまします。



虹は夏から秋にかけてよく見られ、虹は夏の季語となっています。朝虹、虹の帯、虹の橋、二重虹などとしても使うようです。俳句では、夏以外に出る虹は、春の虹、秋の虹、冬の虹として使うだけのようです。冬の虹というと、どこか物寂しい感じがしますが、長い間鉛色に閉じ込められたときに見られるなら、心ときめくのではないでしょうか。

